

## 末梢血中に線癌細胞を多数認めた骨髄癌腫症の1症例

©松下 志保<sup>1)</sup>、滝澤 貴叙<sup>1)</sup>、角田 淳子<sup>1)</sup>、廣野 菜央<sup>1)</sup>、緑川 勝彦<sup>2)</sup>  
公益財団法人 星総合病院 中央検査科<sup>1)</sup>、公益財団法人 星総合病院 病理診断科<sup>2)</sup>

## 【はじめに】

骨髄癌腫症とは、腫瘍細胞が骨髄内に多発性かつ広範囲に転移し、骨髄組織が腫瘍細胞に置換された状態をいう。骨髄には血行性に腫瘍細胞の転移が起こりやすいが、一般的に未分化なものほど骨髄への転移が多く、組織型では腺癌が多いとされている。今回私たちは、末梢血液中に腫瘍細胞と思われる細胞を多数観察した症例を経験したので報告する。

## 【症例】

65歳女性。20XX年左乳癌と診断された。20XX+6年左乳癌再発にて当院紹介となり、20XX+8年他院PET-CTにて乳癌再発骨髄転移と診断され治療中であった。今回来院時の主訴は、呼吸苦と鼻出血であり、杖歩行で入室したが、息切れで会話困難な状態であった。SPO<sub>2</sub>が82%、顔面、全身にむくみもあった。

## 【結果・経過】

WBC $28.2 \times 10^3/\mu\text{l}$ 、RBC $3.68 \times 10^6/\mu\text{l}$ 、Hb11.2g/dl、  
MCV94.3fl、PLT $19.0 \times 10^3/\mu\text{l}$ 、Neutro23.9%、Ly22.4%、

Mo52.3%、Eo0.5%、Ba0.9%（機械値）、RET9.2%、  
LD1385U/l、CEA167.06U/l、CRP3.41mg/dl。WBC高値のため、目視の依頼が追加された。Band6.0%、Seg35.0%、  
Ly26.0%、Eo0.0%、Ba2.0%、Meta1.0%、Myelo3.0%、  
Blast様2.0%、Other22.0%（辺縁不整や空胞を有する好塩基性の細胞をOtherとした）、EBL24個/100WBC。患者背景と検査結果より、骨髄転移した腫瘍細胞の出現又は、骨髄白血化などを考慮し、Other細胞同定の為、病理診断科で免疫染色を実施。CD45<sup>-</sup>、AE1/AE3<sup>+</sup>で上皮由来細胞と同定された。

## 【まとめ】

末梢血液中に上皮由来の腫瘍細胞を多数観察した症例を経験した。末梢血液に腫瘍細胞が多数観察される骨髄癌腫症の経験例は少ないと思われる。主観に囚われない血液細胞の注意深い観察と、他部署との連携、臨床への速やかな報告の重要性を改めて感じた症例であった。